

2 社会の要請に応える体験活動等事業
ウ 防災・減災教育事業

令和6年度 全国中学生・高校生防災会議「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」

〔主催〕 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〔主管〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 オンラインプログラム:令和6年12月7日(土)

メインプログラム:令和6年12月20日(金)～22日(日)【2泊3日】

〔会場〕 国立諫早青少年自然の家、雲仙岳災害記念館及び普賢岳周辺、島原市文化会館

〔参加者〕 参加者 98名(生徒57名、教員27名、その他14名)

参加校 23校

北海道岩見沢市立緑中学校	北海道静内高等学校	岩手県立大槌高等学校
岩手県立釜石高等学校	山形県立遊佐高等学校	千葉県立館山総合高等学校
新潟県立糸魚川白嶺高等学校	静岡県立富岳館高等学校	暁中学校・高等学校
京都府立東稜高等学校	滝川中学校・高等学校	兵庫県立舞子高等学校
和歌山県立向陽高等学校	和歌山県立那賀高等学校	高知県立高知東工業高等学校
高知県立高知北高等学校定時制昼間部		高知県立大方高等学校
北九州市立石峯中学校	大分県立佐伯鶴城高等学校	長崎県立諫早高等学校
長崎県立諫早東高等学校	長崎県立佐世保南高等学校	長崎県立松浦高等学校

〔講師〕 雲仙岳災害記念館館長 杉本伸一 氏

防災教育学会会長/兵庫県立大学客員教授 諏訪清二 氏

長崎大学病院災害医療支援室室長(准教授)

／長崎大学病院高度救命救急センター副センター長 山下和範 氏

〔担当職員〕 寺中 拓也、高山 雄也

1)趣旨

地震や火山噴火、水害など様々な災害が頻発している日本において、これからの防災や減災の担い手である全国各地の中学生・高校生を対象に、今後の防災や減災について考える機会を設け、人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指す。

2)SDGsで目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 全国から防災減災を学ぶ生徒が集い、体験や意見交換を通して深く学ぶ機会を提供します。
		目標11 住み続けられるまちづくりを 次の災害に備え、被害を最小限に抑えるために、これから中高生として取り組むべき事項について考えます。

3)目標

- ①講義やフィールドワークを通して、雲仙普賢岳噴火災害をはじめとする様々な被災時の状況等を理解する。
- ②参加者同士で意見交換を重ね、人と協働して課題を解決する力を高める。

4)プログラム

オンラインプログラム（12月7日）	1日目（12月20日）
13:30 主催者挨拶、講師挨拶 13:45 アイスブレイク 14:00 意見交換、協議【写真①】 （小グループ） 15:15 各グループの目標発表 15:30 終了	17:30 開会式 18:00 ウェルカムパーティー【写真②】 19:20 アイスブレイク【写真③】 20:00 講義【写真④】 21:10 入浴 22:30 就寝
2日目（12月21日）	
6:45 朝食 7:30 移動（雲仙普賢岳周辺へ） 9:00 屋外フィールドワーク【写真⑤】 （土石流被災家屋保存公園→砂防堰堤→定点） 11:00 屋内フィールドワーク （雲仙岳災害記念館） 12:00 昼食（弁当）	13:30 パネルディスカッション【写真⑥】 15:15 ワークショップ 16:30 移動（自然の家へ） 17:30 夕食、入浴 19:30 アクションプラン作成【写真⑦】 22:30 就寝
3日目（12月22日）	
7:15 朝のつどい、朝食、荷物整理 8:30 アクションプラン発表【写真⑧】 9:30 閉会式	

5)事業展開

①オンラインプログラム(意見交換、協議)



事業当日までの不安を解消し、スムーズに交流が開始できるよう、事前のオンラインプログラムを実施しました。

学校で使用しているICTを活用し、一人一人が積極的に意見交換できるよう小グループとなり、各学校の紹介やグループの目標を考えました。

②ウェルカムパーティー



夕食をパーティー形式で行うことで、出会ったばかりの参加者同士の交流を促進するとともに、楽しく学ぶ雰囲気づくりに努めました。

長崎県内参加校生徒が考えた長崎県クイズや、生徒同士の名刺交換を行い、素晴らしいオープニングプログラムとなりました。

③アイスブレイク



参加者の交流を目的に、身体を動かして楽しむレクリエーションを実施しました。

会って間もない参加者同士でしたが、たくさんの笑顔が見られ、この後のプログラムで積極的に意見交換できる関係を築くことができました。

④講義



長崎大学病院DMATの山下氏から、DMATの活動の様子や活動に伴う被災地域の状況等について講義をいただきました。

災害時の様々な支援の動きの中で、中高生としてできることは何か考えるきっかけとなりました。

⑤屋外フィールドワーク



雲仙岳災害記念館の杉本館長による解説を聞きながら、噴火災害の各遺構を巡りました。

被災した家屋や車両の様子、その後の復興への道のり等を聞くとともに、雲仙普賢岳を目の前にし、噴火災害をリアルに感じることができました。

⑥パネルディスカッション



防災教育学会諏訪会長が進行役となり、杉本館長に加え、諫早市自治会連合会の古賀会長、本事業に参加している高校生4名に登壇いただきました。

どうすれば多くの人に防災を自分事として捉えてもらえるのかについて、意見を交わしました。

⑦アクションプラン作成



これから自分たちはどのようなことに取組んでいったらよいか、お互いの意見を伝え、各グループでアクションプランを考えました。

これまでの講義、フィールドワーク、パネルディスカッションから学び、考えた意見が多く出され、活発なディスカッションが行われました。

⑧アクションプラン発表



各グループで考えたアクションプランを、模造紙にまとめて発表し、聞き手の生徒は感想や疑問点等をフィードバックしました。

発表をするグループも、発表を聞く人たちも、新しい視点を得られる、良い学び合いの場となりました。

6)評価

①アンケート結果(事業全体に対する満足度)

生徒

満足	やや満足	やや不満	不満
89%	11%	0%	0%

引率

満足	やや満足	やや不満	不満
74%	22%	0%	4%

②参加者の声

○生徒

- ・ 他県の防災活動への取り組みを知り、行動に移すことはすごく大切なことだと改めて感じました。私の学校は防災活動に取り組む人があまりおらず、学校としてもあまり防災教育に力を入れていません。今まで防災について語り合うことが無かったので、たくさんの方々と防災について熱く語り合うことができ、すごく楽しかったです。
- ・ 以前の私は、行動起こす、学校巻き込む、地域巻き込むとか無理だろうと思っていました。しかし、今回の合宿を通して、学校を巻き込みたい！地域を巻き込みたい！広島、長崎の平和学習と同じくらい、もっと防災学習に熱心に取り組んで欲しい！と思うようになりました。
- ・ 防災の知識の向上はもちろん、他者と関わるからこそが、学びの源なのだと感じました。私はこう考えるけどあなたはと思う？と問うと、私の中では考えられていなかった違う視点や、知らなかった新たな知識がたくさんの場所から飛んできました。それが対話するってことなのだと改めて感じました。

○引率者

- ・ とても刺激的な3日間でした。次の日が楽しみで、寝る時間なのに眠れない…となったのは、小学生の時以来でした。先生方、生徒たちと話すことで、各校の課題や先生の思い、生徒の思いなど、沢山共有でき、大きな刺激を貰いました。明日から防災について頑張ろうと考える事ができる良い合宿だったと感じています。
- ・ 先生同士で全国の様々な取り組みを共有し、良いアイデアを取り入れるための機会となりました。防災減災に取り組んでいる学校が少ない当地の学校にとって、貴重な場でした。やってみよう、という実践も沢山知ることができたため、来年度以降の計画に取り入れていこうと思います。
- ・ 丁寧に計画された事業で、すべての取り組みが何かしらの目的をもって作られており、すべての取り組みに学びがありました。意識の高い生徒の皆さんと活動できて、本校生徒も成長できました。

7)成果と課題

①成果

- ・ 文部科学省安全教育推進室や「世界津波の日」高校生サミット2024事務局の熊本県危機管理防災課にご協力をいただき、例年案内できていない学校へ広報することができ、新規参加校が増加した。
- ・ 事前のオンラインプログラム、オープニングのウェルカムパーティーや名刺交換、アイスブレイク等により、早い段階で参加者が学び合える関係を築けたことが、参加者の学びの深まりにつながった。

②課題

- ・ 本年度は12月の開催となったため、年度内にアクションプランを実行できる時間的な余裕が学校には無いことが懸念される。
- ・ 3名以上の生徒が参加を希望した学校がいくつかあったが、予算の関係上、県外校は1校につき2名までと制限した。意欲ある生徒が、より多く参加できる運営体制が整えられるとよい。